### ブナの森の仕組みを学ぶ

## 講座「ブナを利用する昆虫たち」＆自然観察会「恵みの森で紅葉のブナを見よう」開催

只見町ブナセンター主催の講座「ブナを利用する昆虫たち」が、１０月２３日(土)に只見振興センターで開催されました。

講師の三田村敏正氏（福島県農業総合センター浜地域研究所）が、実際の昆虫標本を見せながら、町内のブナ林で見られる昆虫の特徴やそれらの生態、只見で記録のある冬虫夏草（とうちゅうかそう）、近年県内で確認された外来昆虫についてまで、幅広く紹介しました。

翌日２４日には、自然観察会「恵みの森で紅葉のブナを見よう」が、開催されました。三田村敏正氏が同行し、色づき始めた恵みの森のブナ林を堪能しながら、秋に現れる生きものを探索・観察しました。

▲参加者は三田村氏の解説を聞きながら観察会を楽しみました

### 日頃の練習の成果を発揮

## 第２回「自然首都・只見カップ」開催

▲攻守ともにすばらしいプレーが見られました。

会津地区内のスポーツ少年団が参加するソフトボール大会第２回「自然首都・只見カップ」が、１０月２４日に町下グラウンドで開催されました。この大会は、昨年度に新設された大会で、只見スポーツ少年団の子どもたちと保護者が中心となり準備が進められました。

今年は只見町、南会津町、下郷町の他に会津美里町からも高田スポーツ少年団が参加し、計１０チームによるトーナメント戦となりました。

只見スポーツ少年団からは２チームが参加し、日頃の練習の成果を発揮しました。子どもたちの一球一球真剣なプレーにより、多くの好プレーが見られました。

### 他国の文化を知る

## 明和小フリー参観「国際交流学習」開催

明和小学校で１０月３０日にフリー参観を実施し、児童の学びの様子などを保護者の方々が参観しました。

５・６年生の授業では国際交流学習が行われ、会津工場の協力で同社に勤務されているインドネシア出身の皆さんと国際交流を行いました。

授業では、インドネシアの食事や学校、実際に身に付けた民族衣装等について説明がありました。

質疑応答では、児童から「インドネシアの海にもゴミがありますか」との質問に「インドネシアもプラスチックゴミが多いです」と回答され、世界共通の課題を再認識する場面が見られました。

▲熱心に話をきく児童たち

## 現代の剣士が集う
# 第６回「河井継之助杯 只見剣道大会」開催

河井継之助杯只見剣道大会実行委員会が主催する第６回「河井継之助杯只見剣道大会」が、１１月３日に只見町民体育館で開催されました。この大会は、河井継之助の精神を学び、継承し、健全な心身を培うことを目的としています。

当日は、南会津町や金山町も含め、約７０人の少年少女剣士の参加がありました。２年ぶりの開催となりましたが、子どもたちは日頃の練習の成果と気合を込めて、竹刀を交えました。

▲気合がぶつかり合い、熱い試合となりました

### 河井継之助杯結果表

| | | | １　位 | ２　位 | ３　位 |
|---|---|---|---|---|---|
| 個人 | ４年生以下 | 男子 | 渡部　永遠（只見） | 鈴木　湧士（伊南） | 平野　颯斗（伊南） |
| | | 女子 | 矢沢　茜音（只見） | 渡部あさひ（只見） | 星　　俐羽（南郷） |
| | | | | | 平野　ゆず（伊南） |
| | ５・６年生 | 男子 | 羽染　幹太（伊南） | 齋藤　康輝（伊南） | 渡部　鉄心（南郷） |
| | | | | | 齋藤　充希（只見） |
| | | 女子 | 藤　　岬（伊南） | 五十嵐玲奈（横田） | 佐藤　紗季（横田） |
| | 中　学　生 | 男子 | 藤　小次郎（南会津中） | 須江　悠成（南会津中） | 鈴木　敦士（南会津中） |
| | | | | | 酒井健太郎（南会津中） |
| | | 女子 | 吉津　知巴（只見中） | 羽染　茉弥（南会津中） | 目黒　夏穂（只見中） |
| 団体（男女混成） | 低　学　年 | | 只見剣道スポーツ少年団Ａ | 伊南武道館Ａ | 舘岩スポーツ少年剣道部 |
| | | | | | 只見剣道スポーツ少年団Ｂ |
| | 高　学　年 | | 伊南武道館Ａ | 只見剣道スポーツ少年団 | 南郷スポーツ少年団 |
| | 中　学　生 | | 南会津中Ａ | 南会津中Ｂ | 下郷中 |
| | | | | | 只見中Ａ |

## 会場と心に響いた演奏会
# 「会津シンフォニック・アンサンブル」演奏会開催

▲只見振興センターにきれいな音色が響き渡りました

会津シンフォニック・アンサンブルによる演奏会が、１１月３日に只見振興センターで開催され、約５０人の方が鑑賞しました。

演奏会は８曲の演奏の他に、楽器の紹介や楽器単体での演奏なども行われました。

演奏会のメンバーの皆さんは、「久しぶりの会場演奏なので、少し緊張します」と話していましたが、息の合った素晴らしい演奏が披露されました。

アンコールでは、町民の方や渡部教育長が指揮を行うサプライズもあり、会場は大盛り上がりとなりました。

## タスキで多くの人の思いを繋ぐ
# ふくしま駅伝２０２１壮行会開催

第３３回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）の壮行会が、１１月５日に町下グラウンドで行われました。

鈴木好行体育協会長が「持てる力を発揮し、大会を楽しんできて欲しい」とあいさつをしました。その後、目黒英樹監督が選手紹介をし、目黒咲翔さんが「サポートしてくれた皆さんの思いを乗せたタスキを精一杯つないでいきたい」と決意表明をしました。最後は渡部勇夫町長から「家族をはじめ町民皆が応援しています。日ごろの成果を充分に発揮してきてください」と激励の言葉が送られました。

▲選手１人１人が熱い思いを胸にタスキをつなぎました

## みんなで音楽を楽しみました
# 「第５８回只見町小中学校音楽祭」開催

「第５８回只見町小中学校音楽祭」が１１月９日に開催され、 町内３小学校の３・４年生と只見中学校３年生が演奏や合唱を披露しました。

本番前に行われたリハーサルでは、児童・生徒とも少し緊張しているような面持ちでしたが、本番が始まると音楽を楽しみながら、のびのびとした演奏を披露していました。

閉会式では、各学校の代表者が「どの学校もハーモニーが凄く良かったです。難しそうな演奏も音がキレイに合わさって素敵でした」と音楽祭の感想を述べました。

▲只見小学校は合唱「小さな世界」、リコーダー演奏「さくら笛」を披露しました

▲朝日小学校は合唱「まきばの朝」、リコーダー演奏「エーデルワイス」を披露しました

▲明和小学校はリコーダー演奏「シベリア鉄道」、合唱「にじ」を披露しました

▲只見中学校は合唱「足跡」を披露しました

## 「なんでもチャレンジ隊」視察研修
# 「南会津消防フェア」参加

「なんでもチャレンジ隊」が、南会津広域市町村圏組合消防本部・消防署で行われた『南会津消防フェア』に参加しました。

「なんでもチャレンジ隊」の子どもたちは、他町村から参加している子どもたちと共に総務班・救急班・警防班・予防班の４班に分かれて、消防署内の見学や消防活動体験などを行いました。

見学の後に各班内でクイズが行われ、高得点を出した４人の子どもたちが閉会式で表彰され、「なんでもチャレンジ隊」からは、酒井乃愛さんが表彰されました。

▲参加した子どもたちはどの班も「楽しかった」と話しました

## 食をとおして健康づくりを学ぶ
# ただみの郷土料理「ざく煮」試食

山村留学生を対象にした食育活動の一環として、ただみの郷土料理「ざく煮」の試食が、１１月１１日に奥会津学習センター食堂で行われました。また、試食会では食習慣の大切さを伝える冊子や減塩の大事さを伝えるチラシなども配布されました。

ざく煮を食べた山村留学生は、「ニシンを初めて食べました。沢山の具が楽しめて、とても美味しいです」と話しました。

試食で振舞われたざく煮の調理は、只見町食生活改善推進員会の河原田宏子さん、新国ユウ子さん、田中ケイ子さんにご協力いただきました。

▲寮生のみんなでざく煮を美味しくいただき、食生活を考えるキッカケになりました

## 只見町の新そばに舌鼓
# 第２９回「只見新そばまつり」開催

第２９回「只見新そばまつり」が、１１月１３日に季の郷湯ら里で開催され、町内外の参加者が只見の新そばや天ぷらなどを堪能しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、昨年同様に定員数の減、透明シートの設置、飲食時以外のマスク着用のお願いなどをしての開催となりました。

参加者は「毎年楽しみにしています。今年は特にコシが良くて美味しいです。今年も沢山食べられてうれしいです」と話しました。

▲参加者は、時間いっぱい新そばを楽しみました

## 新館長が姉妹館を視察
# 長岡市河井継之助記念館長来町

１１月１０日に、長岡市河井継之助記念館から中田仁司館長ら一行が来町され、塩沢医王寺の河井継之助の墓を参拝された後、只見町の河井継之助記念館や山塩資料館などを見学されました。

館内のガイドを角田行雄さん（小林）が務め、河井継之助の生涯や只見での足跡、司馬遼太郎作『峠』の世界観の解説などをされました。

中田館長は、教員時代に教え子と只見町を来訪した際に地元の歓待を受けた思い出などを感慨深く話されました。

▲最後は只見町河井継之助記念館の前で記念撮影をしました

## 只見高校生が企画
# イベント「Let’s Go 癒しの森」開催

▲只見高校生による運営は、子どもたちにも親しみやすく、笑顔溢れるイベントとなりました

森林の分校ふざわが主催するイベント「Let’s Go 癒しの森」が、１１月１３日に開かれ、インストラクターによるツリーイングの他に、只見高校生が企画・運営する的当てやお宝さがしが、癒しの森で行われました。

癒しの森を満喫した後は、森林の分校ふざわでバーベキューが行われました。

このイベントは、只見高校の「総合的な探究の授業」の一環で、１・２年生８人が「癒しの森の魅力を子どもたちにも伝えたい」という思いから実施しました。

参加した子どもたちの保護者の方から「只見高校生のイベントだったので安心して楽しませることができました。また参加したいです」と話しました。

## 異文化交流を楽しむ
# 「国際文化交流会ミニ運動会」開催

明和自治振興会が、１１月１４日に明和小学校体育館で「国際文化交流会ミニ運動会」を開催しました。

株式会社会津工場や株式会社ヒロタテクノに勤めているインドネシア・フィリピン・ベトナムの海外研修生と地域住民が混成で２チームに分かれ、玉入れや借り物競争など７種目の競技をとおして交流を深めました。

参加した皆さんは「勝ち負けに関わらず良い異文化交流となりました」と話しました。

▲最後は、参加者みんなで記念撮影をしました

## 長年の活動が称えられました
# 日赤奉仕団員功労表彰伝達式

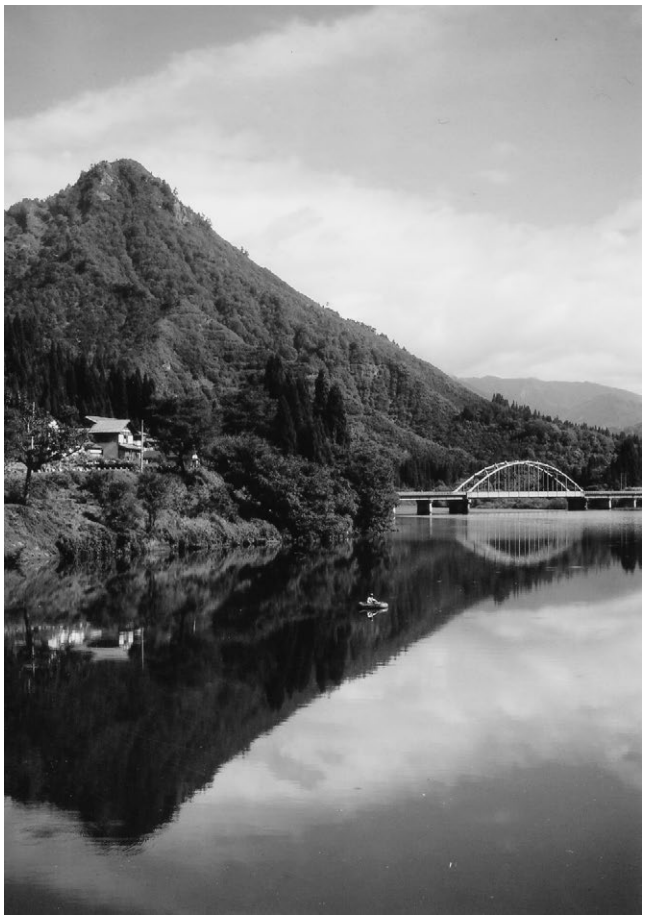
令和３年度日本赤十字社福島県支部・奉仕団員功労表彰の伝達式が１１月１０日に只見町役場で行われました。

町内からは、９人の方が銀色有功賞や銀枠感謝状の表彰を受けました。これは多年にわたり奉仕団活動にご尽力いただいたことを表彰したものです。

渡部町長は「長年、家庭やお仕事など忙しい中でもご尽力をいただきまして、ありがとうございました。この度の受賞おめでとうございます」と感謝と祝福の言葉を述べました。

▲伝達式に参加された皆さん

## 自然の保護・保全や自然資源の活用を目指して
# 蒲生岳と只見川周辺地域が越後三山只見国定公園に編入


▲蒲生岳と只見川

「只見柳津県立自然公園」は、喜多方市、西会津町、柳津町、三島町、金山町、只見町の６市町にまたがり、只見川下流部から阿賀川の区域などとあわせて１６，７６６ｈａがありました。

この「只見柳津県立自然公園」と、自然公園周辺の只見川下流部から阿賀川の区域などが、１０月２９日に「越後三山只見国定公園」に編入されました。これにより、町内の蒲生岳とその周辺区域も越後三山只見国定公園に編入となりました。

新しく誕生した越後三山只見国定公園は、総面積１０２，８９５ｈａとなり、全国に５７ある国定公園のうち、日高山脈襟裳国定公園に次いで２番目に広い国定公園となりました。

今回の編入を機に奥会津の風景や文化などにも大きな注目が集まることが期待されます。この機会に、只見町の生活や文化を支えてきた自然の保護・保全や自然資源の地域振興への活用などを改めて考えることが大切となります。

奥会津地域の自然環境の保護・保全と更なる利活用に向け、地域の皆さんと協力し取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

# 文武両道！ 頑張る只見高校生紹介

## 只見高校野球部 秋季大会ベスト８「福島県２１世紀枠推薦候補校」に選出

只見高校野球部は、今年の秋季福島大会で創部以来初となるベスト８入りを決めました。３回戦では、９回に本塁打で追いつくと延長１１回でサヨナラ勝ちをもぎ取りました（７－６）。４回戦では８回裏２アウトからの２安打が決勝点となり逆転勝ち（７－５）を決めました。この粘り強く最後まで諦めないプレーで、ベスト８に輝きました。

秋季大会の結果や豪雪地帯でもひたむきに練習を続ける姿などが評価され、来春の第９４回選抜大会の福島県２１世紀枠候補校に推薦となりました。１２月に各都道府県推薦校から全国９地区推薦校が選ばれ、来年１月に地区推薦校から３校に選ばれると甲子園出場となります。

キャプテン　吉津 塁さん（２年生）

３年生の先輩が引退し、１、２年生チームとなりましたが、チームワークは以前にも増して強くなっています。選手全員が勝利という同じ方向を目指して、練習してきたのが秋の結果や県２１世紀枠の推薦に繋がり、結果として現れるようになったのは嬉しく思います。

２１世紀枠に推薦されたことを聞いた時は正直信じられませんでした。１日経ってニュースや新聞で流れて初めて実感が湧きました。このニュースでチームの士気がさらに高まっているので、この勢いのままに、只見高校は強いなと認めてもらえるように頑張りたいと思います。

引き続き応援よろしくお願いします。

## 只見高校総合文化部パソコン班 ふくしまふるさとCM大賞 「ベストパフォーマンス賞」受賞

只見高校総合文化部パソコン班は、ＫＦＢ福島放送が主催する「第２０回ふくしま ふるさとＣＭ大賞２０２１」で、「ベストパフォーマンス賞」を受賞しました。パソコン班が作品の企画から撮影、編集を行いました。「勇者が町の観光名所を駆け抜ける」をテーマとして作成し、勇者が町を駆け抜けたりイワナを食べたりしながら、町の魅力を伝えるＣＭとなっています。

左：主演　目黒 正也さん（３年生）　右：撮影　岩佐 優生さん（２年生　山村留学生／埼玉県出身）

高校生がＣＭ大賞を作り始めてから３回目になります。過去２回は参加賞止まりでしたが、今年こそ大賞を獲るぞという意気込みで作成しました。

今回はプロ用の機材を借りて撮影を行いましたが、機材が重く、臨場感を出すために低位置からの撮影がとても大変でした。

大賞には至りませんでしたが、体当たりの演技が評価されてのベストパフォーマンス賞ということで、とても嬉しかったです。

来年も作成したいと思いますので、また応援よろしくお願いします。

## 文芸関連も多数受賞しています！

三瓶 楓さん（２年生）

高校生読書体験記コンクール
福島県選考会　奨励賞

○772点の応募の中から奨励賞に選ばれました。

三瓶 楓さん

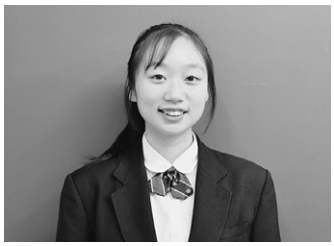
読書体験記は、本の感想だけで終わるのではなく、どのように影響をうけたかなど深く書くため、読書感想文よりも難しいものと感じました。それでも何かに挑戦してみたいと思い書き始めました。応募するまで何度も書き直したので、受賞を聞いた時はとても嬉しかったです。

題材にした本の著者の室屋義秀さんは、福島県内の出身で震災など似たような経験をしているのに私と考え方が全く違いました。本を読むだけで、考え方や分からなかったことなど学べることはとても多いと思います。私も考えすぎて行動に移せないことが多いのですが、やりたいことを積極的にやってみようと思えるようになりました。

酒井 香苗さん（３年生）

都留市全国俳句大会
正木先生入選
「初詣見守っててと願うだけ」

○1,986句の応募の中から入選に選ばれました。



酒井 香苗さん

２年生の冬に応募したものだったので、今年の秋に結果が分かった時は、本当にびっくりしました。

この句は、実際に私が初詣をした時の心情を、思ったまま書き起こしました。初詣の時は、神様やご先祖様にお願いなどをすると思いますが、私は「自分でできるとこまでやってみるから、だから見守っていて」という気持ちで初詣をしました。それを文字にして形にすることで、自分に厳しくなれる気がしました。

将来の夢を叶えるためにも、「自分でできるとこまでやってみる」という前向きな精神で頑張りたいと思います。

渡部 茉子さん（２年生）
県知事賞受賞（全国２位相当）

## 環境省主催 いっしょに考える『福島、その先の環境へ』チャレンジアワード　只見高校２年連続受賞

水害当時は保育所に通っていましたが、祖父母の家が被災したことを今でも覚えています。良い記憶はもちろん残しておきたいものですが、辛い記憶も未来をつくるためには残していかなければいけないと思いました。
実際に文章に書き起こすことで整理して考えることができ、当時の大変さを改めて感じました。
また、ロボットやＡＩといったものが活躍する場面が増えている中、人間だから気付けるものを大切にしていきたいと感じました。

### 私が目指す「新しいまち」とは～人と人とのつながり

２０１１年の東日本大震災発生から１０年という月日が経った。
私は震災当時６歳で、３月の保育園卒園時の小学校入学を目前にしていた時期で曖昧な記憶しか残っていない。しかし、津波で自動車や家屋が流される様子をＴＶで見て、幼いながらに大変な恐怖を感じた事だけは覚えている。
私の住む只見町は、奥会津地方の日本有数の豪雪地帯で、海からも遠く離れているのだが、同年に発生した「平成２３年７月新潟・福島豪雨」によって、只見川が氾濫し、激甚災害に指定された大規模水害が発生した。私の自宅は無事だったが、近所に住む祖父母の家は床上浸水の大きな被害を受けた。家の壁や畳は泥まみれ、家の骨組みだけが剥き出しになった様子は今でも忘れられない記憶だ。幸い祖父母は２階に避難し無事だったが、飼育していたニワトリ等の家畜は全て流されてしまった。福島県の農林水産被害は約９９億円に上ったという。だからこそ、私にも町を襲った津波（東日本大震災）に対する恐ろしさはわかる。
原発災害があった相双地区同様、只見町も電気を生み出す町で、只見川には複数のダムがあり、水力発電という再生可能エネルギーで最大の基地となっている。原発災害で未だに故郷から離れた生活を余儀なくされている方がいることは他人事には思えない。令和３年の復興庁の福島県民の避難者数調査では現在でも、６９１６人という多くの人が１０年に及ぶ避難生活を送っている。自らの住み慣れた故郷を遠く離れ、慣れない土地での生活は、身体的にも精神的にも負荷がかかるものだと思う。
一方、大幅に放射線量が低下した現在でも福島県全体に根深く続くのは風評被害だ。検査で安全性が確認された福島の美味しい野菜や果物であっても、疑いの目で見られてしまうことがある。山菜の宝庫の只見町でも、「コシアブラ」という山菜しか出荷制限がかけられていないにも関わらず、「コゴミ」、「ワラビ」等、すべての山菜の販売量が減少しているという。まだ福島の食べ物に対して嫌悪感を抱く人や、福島の食べ物の魅力に触れてもらえないのはとても悔しい。第一原発の処理水の海洋放出も決まり、１０年経過してもさまざまな影響があることが伝わってくる。
そんな中で私たちは、総合探究の授業の一環として只見町の企業の方々と協力したプロジェクトを行った。地域循環・地産地消を目指して、只見の農産物と只見の企業で売られている商品を使ったオリジナルレシピを考えた。それは「えごま豆乳ラーメン」というものだ。只見町のトマトやえごま油、町の麹店の麺などを材料とした。購入した方には、只見の農産物にも興味を持って欲しいと考え、手書きのレシピも作成した。さらには、只見町全体に興味を持ってもらいたいという願いも込めて商品開発をした。そのようなことで何が変わるのかと思う人もいるかもしれないが、その小さな取り組みの積み重ねこそが大事と私は考える。どんなに小さなことでも、それをきっかけとして只見町を、そして福島を知ってもらうことにつながるはずだ。
この活動で町の方々との交流を通して、私は改めて只見町民の良さも感じることができた。普段の何気ない日常でのちょっとした気遣いなど、とても恵まれた環境にあると感じる。当たり前だと思っていたことが、実はとても有難いことだと気付いた。そのような町に暮らす人々の良さも知って欲しいのだ。バーチャル空間でなくリアルな体験として、実際にその町に来てみて、その町に住む人と交流して、その町で生産された物を現地で食べて、町そのもの、町全体をトータルに知ってもらうことこそが何よりも風評被害への対策となるはずだ。
現代はＩＣＴの推進により人の仕事は次々にロボットへと変化しているが、人間同士のコミュニケーションの中で生まれるものや、小さな触れ合いの積み重ねからなる、人と人との関係にこそ、現代に生きる私たちが見失っている大事なものがあるのではないか。人類の歴史上、人間が積み重ねてきた人と人との触れ合いにこそ、若者ことばの「一周回って新しい」、そして、むしろ逆に「古くて新しい」価値、その先の未来にある本物の「新しいまち」にとっての必要十分条件と言えるのではないか。そして、さらに現在のコロナ禍に苦しむ社会では、ソーシャルディスタンスが取られ、テレワークも推進されている。学校でも、感染拡大防止対策のもと、黙食のお願いや、学校行事ができない、何よりお互いの表情がマスクで見えない等、ますます友人との楽しい時間が削られている。そもそも人と人とのコミュニケーションは、「オンライン」だけで成立するものではないはずだ。
原発被害、津波被害、豪雨水害から１０年が経過し、復旧も進み「新しいまち」が建設され、インフラ環境は整ったが、人と人とのコミュニケーションという心の交流も、当然「人間」が暮らす未来、福島の復興には必要なのだ。その物理的な面と精神的な面との両方とも、そこに暮らす人々が実感できること、これこそが私が目指す本物の「新しいまち」だ。